

詩をつむぐなど

だれの心にも詩があると、おしえてくれた人がいる
書きなぐりの吐露でなく
詩を書いてみたい、と思った

けれどどうして書けるというのだろうか

おまえはその手で

大切な人を傷つけ

愛した日々をこわし

自分さえ見失った

真っ黒に汚れた自分であることに変わりが無いというのに
ひとり泥の中でもがくにすぎないというのに

深く美しい言葉たちにふるえ、涙しても

おまえの汚れは消せない

真白なノートにペンをおいてみても

書けるはずがないだろうと

泥の中の私がわらう

やさしい月の光がさす今夜でさえ